

しっかり育ててね

小学生、稚魚5千匹放流

金沢沖

金沢

栽培漁業の理解を深め、水産

資源の大切さを知ってもらおうと「金沢放流祭り」が29日、横浜市漁業協同組合金沢支所（同市金沢区）近くの金沢漁港沖で行われ、近隣の小学生が稚魚の放流を体験した。

参加したのは、市立金沢

小学校と関東学院六浦小学校の5年生計約140人。

金沢漁港から遊漁船に乗って沖に向かい、5分ほどで放流地点に到着。子どもたちは「元気に育ててね」などと声を掛けながら、ヒラメやメバルの稚魚（体長約6、7センチ）計約5千匹を水面に放流した。

放流後の質疑応答では、児童が「珍しい魚も捕れる



のですか」などと質問。同支所の木川亮一さん(55)は

「温暖化の影響があるのか、最近では漁師でも名前が分からない魚が網に掛かることがある」と答えていた。漁に出ない日でも、漁網や道具を直したりすることも説明した。

同支所の主催で県栽培漁業協会が協力し、今年で14回目。支所長の久保寺弘さん(72)は「数年前からヒラメが多く捕れるようになってきた。放流を続けている成果だと思う」と話していた。

ヒラメやメバルの稚魚を放流する児童＝金沢漁港沖

(吉田 太一)